



Press Information

VPR16-051

2016年8月1日(月)

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社

ラリー・フィンランドでラトバラ選手が2位フィニッシュ

- ・ ヤリ-マティ ラトバラ選手が母国開催のラリーで2位表彰台を獲得。
- ・ ドライバー ランキングはフォルクスワーゲン勢が1位から3位までを独占。



2016年世界ラリー選手権(WRC)第8戦「ラリー・フィンランド」は、7月28日～31日に学園都市、ユバスキラを中心に開催されました。

フォルクスワーゲン モータースポーツのポロ R WRC を駆るヤリ-マティ ラトバラ選手は、この母国イベントで2位表彰台を獲得、ドライバー・チャンピオンシップでも総合3位に浮上しました。

「ラリー・フィンランド」は、高速セクションと低速テクニカル セクションがバランス良く組み合わせられたグラベル(非舗装路)ラリーです。“森林のF1”、“フィンランドGP”、“4輪のエアレース”などの異名が示すとおり、WRC 随一の超高速イベントであるとともに、名物スペシャルステージ(SS: 競技区間)「オウニンポウヤ」では、何度もマシンが宙を舞い、50メートル超の最長不倒距離が記録されたこともあります。ジャンピングスポット直後にコーナーがあることが多く、適切なポジションから“離陸”しなければなりません。先が見通せないクレスト(起伏)も多数存在するため、レッキ(事前走行)中にペースノートを完璧に仕上げる必要があります。伝統的に北欧勢が強いイベントであり、北欧以外では5名のウィナーしか誕生していません。オジェ選手は、その数少ない例外のひとりです。

今年の「ラリー・フィンランド」は、総走行距離 1,370.66km、24カ所の SS による競技区間距離は 333.99km です。湖と針葉樹林による美しい風景をラリーカーが猛スピードで駆け抜けるシーンは特に人気が高く、毎年50万人もの観客が詰めかける北欧最大のモータースポーツ イベントです。

本格的な競技は金曜日に始まりました。いきなりファンを魅了したのは、地元開催に燃えるラトバラ選手とクリス ミーク選手(シトロエン)でした。ふたりはコンマ数秒単位の戦いを続け、前日の SS1 を含めた12カ所の SS のうち、7カ所でトップタイムを記録しました。

路面掃除役を担当させられたオジェ選手は、SS10 のヘアピンで足元を掬われて溝に転落、16分を失いました。本来であればそれ以上のロスが考えられる状況でしたが、ラリーを良く知るフィンランドのファンが彼をサポートして、マシンをコースに戻しました。しかし、事実上これで表彰台フィニッシュはなくなってしまいました。ミケルセン選手は、交差点でスタックしてタイムをロスしましたが、表彰台のチャンスが残される順位につけています。

土曜日の SS も、150km 超の長丁場です。しかし、名物 SS のオウニンポウヤが含まれており、ドライバーも闘志を燃やしていました。33km のステージの中に 70 を超えるジャンピングスポットが存在するだけでなく、瞬間的に速度が 200km/h を上回り、ルート全体の平均速度も 130km/h 超に達します。この SS で 2 度目の不運に見舞われたのがオジェ選手でした。ブレーキ系にトラブルが発生したため、SS 終了後のリエゾン(非競技区間)で修復を試みたものの、続く SS スタートへの到着が遅れて 2 分 10 秒のペナルティを課されました。これにより、3 位争いを展開していたミケルセン選手が 1 番スタートに繰り上がってタイムロスを超えることになりました。

自由に走行できるようになったオジェ選手は、SS19 で 134.63km/h の平均速度を叩き出し、新記録を樹立しました。

最終日曜日の競技区間はわずか 30km 強。ラトバラ選手といえども 40 秒もの差の逆転はむずかしく、着実に 2 位でフィニッシュしました。ミケルセン選手は 7 位、オジェ選手は 24 位で完走しました。

フォルクスワーゲン・モータースポーツの地元イベント、第 9 戦「ラリー・ドイチェランド」は、8 月 18 日～21 日、世界遺産で知られるトリアを中心に開催されます。

[終了後のコメント]

■ フォルクスワーゲン モータースポーツ ディレクター: ヨースト カピート

「ラリーマティは、地元でトップクラスのパフォーマンスを見せてくれました。悲喜交々のイベントでしたが、フォルクスワーゲン勢がドライバー部門のトップ 3 を占めました。ラリー・ドイチェランドを心待ちにしています。」

■ カー#1: セバスチャン オジェ(フランス) 最終結果: 24 位

「半年以上も路面掃除役をやらされたので、精神的にもかなりタフでした。その役目から開放されるので、ホッとしています。フォルクスワーゲンの地元ラリーが待ち遠しいです。」

■ カー#2: ヤリマティ ラトバラ(フィンランド) 最終結果: 2 位

「地元ラリー 3 勝目は逃したものの、一貫して好パフォーマンスを見せられました。パワーステージを含めて大量ポイントが獲得できたので、ランキング 3 位に上がることができました。」

■ カー#9: アンドレアス ミケルセン(ノルウェー) 最終結果: 7 位

「7 位という順位に満足しています。いきなり 1 番スタートを任されて、本当に辛い走行順だと実感しました。限界ギリギリで走行しましたが、思うようなタイムは出せませんでした。」

■ FIA 世界ラリー選手権 第 8 戦ラリー・フィンランド最終結果

1. クリス ミーク/ポール ナグル(シトロエン)	2 時間 38 分 05 秒 8
2. ヤリマティ ラトバラ/ミーカ アンティラ(フォルクスワーゲン)	+29 秒 1
3. クレイグ ブリーン/スコット マーティン(シトロエン)	+1 分 41 秒 3

■ FIA 世界ラリー選手権 マニュファクチャラーズ選手権ランキング(第 8 戦終了時点)

1. フォルクスワーゲン・モータースポーツ	227
2. ヒュンダイ・モータースポーツ	168
3. M-スポーツ	112

■ FIA 世界ラリー選手権 ドライバーズ選手権ランキング(第 8 戦終了時点)

1. セバスチャン オジェ(フォルクスワーゲン)	143
2. アンドレアス ミケルセン(フォルクスワーゲン)	98
3. ヤリマティ ラトバラ(フォルクスワーゲン)	87
4. ヘイデン パットン(ヒュンダイ)	84

* 結果はすべて暫定。